

「平成24年度 病虫害発生予報第6号」の発表について

向こう 1 か月の主要な病虫害の発生予察情報については、次のとおりです。

- ・ 水稻では、斑点米カメムシ類の発生が多くなると予想されます。
出穂期の 10 日前までに生息地となる水田周辺等の雑草の草刈りを終了させ、穂揃期とその 7～10 日後に薬剤防除を実施してください。
- ・ 果樹では、果樹カメムシ類の発生が多くなると予想されます。
例年、飛来が少ない園地でも、園内の観察をきめ細かく行い、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。
- ・ 茶では、チャノコカクモンハマキなどの害虫の発生が多くなると予想されます。
これら害虫の発生状況に応じて、適期に防除を実施してください。

病虫害防除に関する留意点

- ・ 病虫害防除を効果的に実施するためには、病虫害の発生状況を的確に把握し、適期の防除につなげることが大切です。病虫害の発生は天候の影響を大きく受けるので、天候の状況に注意しつつ、都道府県が発表する発生予察情報に基づき、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。
- ・ 薬剤防除を実施する場合には、適切な薬剤を選択するとともに、病虫害が薬剤抵抗性を獲得しないように、同一系統薬剤の連続使用を避けてください。
また、農薬の使用基準を遵守し、散布対象外の農作物等に農薬が飛散しないよう対策を講じてください。このことについては、農林水産省が、6 月から 8 月にかけて、厚生労働省、環境省等と共同で実施する「農薬危害防止運動」においても注意を呼びかけています。

(参考) 平成 24 年 5 月 29 日付けプレスリリース「農薬危害防止運動」の実施について

<http://www.maff.go.jp/j/press/syouan/nouyaku/120529.html>

水稻

- ・ 葉いもちの発生は、近畿の一部地域で「多い」、四国の一部地域で「やや多い」、穂いもちの発生は、近畿及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。
葉いもちの発生が多く上位葉に葉いもちの病斑がみられる場合は、穂いもちの発生が懸念されるので、穂ばらみ期及び穂揃い期に薬剤防除を実施してください。
なお、穂いもちの多発生が予想される場合には、穂揃い期 7～10 日後の追加防除を実施してください。

- ・ **セジロウンカ**の発生は、中国の一部地域で「多い」、北東北、南関東、近畿及び九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

セジロウンカによって媒介されるウイルス病である**イネ南方黒すじ萎縮病**の発生が、平成22年に我が国で初めて確認されました。本年も本ウイルスを保毒しているセジロウンカの飛来が確認されています。

このため、セジロウンカの防除については、吸汁による被害だけでなく、ウイルス病を媒介することについても注意を払う必要があります。水田の見回りの際には、稲の株元を注意深く観察し、株元に褐色の点またはすじ状の傷（産卵痕）が目立ち、成虫及び幼虫の発生が多く見られる場合は、都道府県から発表される発生予察情報で防除適期を確認するなど、適切に薬剤防除を実施してください。

- ・ **トビイロウンカ**の発生は、九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」と予想されます。

本害虫は水田に侵入後、急激な密度上昇により坪枯れ等の被害を起こします。水田内を注意深く観察し、水稻の株元に成虫及び幼虫を確認した場合は、都道府県から発表される発生予察情報で防除適期を確認するなど、適切に薬剤防除を実施してください。

- ・ **フタオビコヤガ**の発生は、北東北の一部地域で「多い」、北陸、東海及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

水田の観察を行い幼虫の早期発見に努めるとともに、発生状況に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **斑点米カメムシ類**の発生は、南関東及び中国の一部地域で「多い」、東北、北陸及び東海の一部地域で「多い」又は「やや多い」、近畿、四国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本害虫の防除は、生息地となる休耕田、畦畔及び水田周辺の雑草管理が基本です。出穂期直前の草刈りは、本害虫の水田への飛び込みを助長し、被害を増加させるおそれがあるので、出穂期の10日前までに草刈りを終了させてください。

また、薬剤防除は穂揃期とその7～10日後の2回実施が標準的です。薬剤防除時期は本害虫の種類構成が地域によって異なるので、都道府県から発表される発生予察情報で防除適期を確認するなど、適切に薬剤防除を実施してください。

大豆

- ・ **ハスモンヨトウ**の発生は、「平年並」と予想されます。

ほ場の観察を行って、本害虫による加害の特徴である白変葉の早期発見に努め、適期に薬剤防除を実施してください。

野菜・花き

露地栽培

- ・ 気温の上昇に伴い病虫害の動きも活発になるので、ほ場を観察して病虫害の早期発見に努め、発生を認めた場合は適期に薬剤防除を実施してください。

施設栽培

- ・ 気温上昇に伴い、栽培管理上施設を開放する機会が増えるので、病害虫の施設への侵入又は野外への飛び出しに注意が必要です。
- ・ 施設内が過湿になると病害の発生が助長されるので、施設周辺に排水路を整備して雨水が施設内に入らないように留意し、作物の株間の通風を図る等により、過湿にならないように施設を管理してください。
- ・ ウイルス病を媒介するアザミウマ類、コナジラミ類等の侵入又は野外への飛び出しを防止するため、施設の開口部に防虫ネット等を設置するなどの対策を実施してください。
- ・ 栽培終了後は蒸し込み処理等を行い、作物残渣での生存虫を死滅させてから搬出し、確実に処分してください。

発生が「多い」・「やや多い」と予想される病害虫及び地域（露地・施設栽培）

作物名	病害虫	発生が「多い」地域	発生が「やや多い」地域
じゃがいも	疫病		北東北
ねぎ	アザミウマ類	南関東	南東北、東海、四国
	べと病		東北
いちご	炭そ病		東海、北九州
	アブラムシ類		北陸、北九州
きゅうり	炭そ病	北東北	近畿、南九州
	アブラムシ類		東北、北陸
なす	うどんこ病	南関東	近畿、四国
	アザミウマ類	北陸、近畿	四国、南九州
	ハダニ類	近畿	北関東、南九州
	タバコガ類		四国
きく	白さび病		南東北、東海、近畿
	アザミウマ類	東海	南九州
	アブラムシ類	北東北	東海

注）表中の地域は、その地域全域で発生がみられるものではありません。

果樹共通

- ・ **果樹カメムシ類**の発生は、東北、関東、中国及び四国の一部地域で「多い」、東海、近畿及び九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、甲信及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。本年は、33都府県（8月2日現在）から注意報が発表されており、全国的に多い傾向です。

本害虫は、繁殖場所である山林等から飛来してくるので、例年、カメムシ類の被害が多い園地や山林に隣接した園地に加え、飛来が少ない園地でも、園内の観察をきめ細かく行ってください。また、飛来が認められた場合は、飛来初期から防除を実施してください。

かんきつ

- ・ **かいよう病**の発生は、東海及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。本病の伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は降雨が続くと発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。
特に、強風による擦れなどの傷口から容易に感染するため、風雨が強まることが予想される場合には、事前に薬剤を散布してください。

- ・ **黒点病**の発生は、四国の一部地域で「多い」と予想されます。本病の伝染源となる枯れ枝は除去して、園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は降雨が続くと発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **ミカンハダニ**の発生は、中国の一部地域で「多い」、東海の一部地域で「多い」又は「やや多い」、南関東、北陸、近畿及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

夏期はカブリダニ類等有用な土着天敵が増殖し、本害虫の密度を抑制しますが、気温が高く雨が非常に少ない天候が長く続いた場合は、本害虫の発生が助長されますので、園内の観察をきめ細かく行い、発生状況に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **チャノキイロアザミウマ**の発生は、東海及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

気温が高く雨が少ない天候が続くと、本害虫の発生が助長されます。園内の観察をきめ細かく行い、発生状況に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

りんご

- ・ **斑点落葉病**の発生は、「平年並」と予想されます。

本病は、降雨時の気温が高く、降雨が続くと発病が助長されます。また、密植や徒長枝により通風や採光が悪いと発病が多くなります。徒長枝の除去等により通風や採光を確保するとともに、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **ナシヒメシンクイ**の発生は、北関東の一部地域で「やや多い」、**モモシンクイガ**及び**ハマキムシ類**の発生は、「平年並」と予想されます。

都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

なし

- ・ **黒星病**の発生は、南東北及び関東の一部地域で「多い」、東海の一部地域で「多い」又は「やや多い」、近畿、中国、四国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病の伝染源となる発病葉及び発病枝は除去して、園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は降雨が続くと発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **ナシヒメシンクイ**の発生は、北関東、近畿及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。また、**モモシンクイガ**の発生は、南関東の一部地域で「やや多い」と予想されます。

都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

- ・ **ハダニ類**の発生は、東海の一部地域で「多い」、南関東、近畿、中国及び北九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

園内の観察をきめ細かく行い、発生状況に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

ぶどう

- ・ **べと病**の発生は、甲信、東海、中国及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病の伝染源となる発病葉及び発病果は、除去して園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は降雨が続く気温が低めの時に発生しやすいので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **チャノキイロアザミウマ**の発生は、北東北及び中国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

気温が高く雨が少ない天候が続くと、本害虫の発生が助長されます。園内の観察をきめ細かく行い、発生状況に応じて適期に薬剤防除を実施してください。

もも

- ・ **せん孔細菌病**の発生は、南東北の一部地域で「多い」、甲信、東海及び四国の一部地域で「やや多い」と予想されます。

本病の伝染源となる春型枝病斑を形成した枝は、除去して園外の土中に埋める等適切に処分してください。また、本病は気孔や傷口から感染し、降雨や強風により発生が助長されるので、天候の推移に注意し、適期に薬剤防除を実施してください。

- ・ **ナシヒメシンクイ**の発生は、近畿の一部地域で「やや多い」、**モモシンクイガ**の発生は、「平年並」と予想されます。

都道府県が発表する発生予察情報を参考に、地域ごとの防除基準に従って防除を実施してください。

- ・ **モモハモグリガ**の発生は、甲信の一部地域で「やや多い」と予想されます。

園内の観察をきめ細かく行い早期発見に努めるとともに、都道府県が発表する発生予察情報を参考に、成虫発生盛期及び若齢幼虫期をとらえた薬剤防除を実施してください。

茶

- ・ **炭そ病**の発生は、九州の一部地域で「多い」又は「やや多い」、東海の一部地域で「やや多い」と予想されます。
本病は、新芽の生育初期が薬剤防除適期になります。園内の観察をきめ細かく行い、本病の発生に応じて適期に薬剤防除を実施してください。
- ・ **チャノコカクモンハマキ**の発生は、近畿の一部地域で「多い」又は「やや多い」、南関東、東海及び九州の一部地域で「やや多い」、**チャハマキ**の発生は、東海、近畿及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
これらの害虫は、成虫発生最盛日の7日後程度が薬剤防除適期になります。地域の予察灯やフェロモントラップでの誘殺状況を参考に、薬剤防除を実施してください。
- ・ **チャノホソガ**の発生は、近畿の一部地域で「多い」又は「やや多い」、東海及び北九州の一部地域で「やや多い」、**チャノミドリヒメヨコバイ**の発生は、南関東、東海及び近畿の一部地域で「多い」又は「やや多い」、**チャノキイロアザミウマ**の発生は、東海の一部地域で「多い」又は「やや多い」、近畿及び南九州の一部地域で「やや多い」と予想されます。
これらの新芽加害性害虫は、夏期に連続して発生します。新芽の生育状況と害虫の発生状況をよく見極め、同一系統の薬剤の連続使用を避けた上で、適期に薬剤防除を実施してください。

都道府県が発表した警報、注意報及び特殊報

平成24年7月14日以降、都道府県が発表している警報、注意報及び特殊報は以下のとおりです。

警報

重要な病害虫が大発生することが予測され、かつ、早急に防除措置を講ずる必要がある場合に発表します。

- ・ 発表はありません。

注意報

警報を発表するほどではないが、重要な病害虫が多発することが予測され、かつ、早めに防除措置を講じる必要がある場合に発表します。

発表月日	都道府県名	対象作物名	対象病害虫名
7月17日	群馬県	果樹（もも、なし、りんご、ぶどう等）	果樹カメムシ類
7月17日	新潟県	水稻	斑点米カメムシ類
7月18日	岩手県	りんご	果樹カメムシ類
7月18日	広島県	果樹全般（かき、なし、もも、りんご、かんきつ類）	果樹カメムシ類
7月19日	山形県	水稻	斑点米カメムシ類

7月19日	岐阜県	かき、なし、もも、りんご、みかん等	果樹カメムシ類
7月20日	長野県	果樹	果樹カメムシ類
7月23日	和歌山県	もも、かき、なし、ぶどう、キウイフルーツ	果樹カメムシ類
7月24日	三重県	水稲	斑点米カメムシ類
7月25日	山形県	りんご、もも、なし、かき	果樹カメムシ類
7月26日	秋田県	りんご、なし、もも	果樹カメムシ類
7月26日	山梨県	果樹全般	果樹カメムシ類
7月26日	岐阜県	かき	カキノヘタムシガ
7月26日	大阪府	水稲	いもち病（葉いもち、穂いもち）
7月27日	秋田県	水稲	フタオビコヤガ
7月30日	島根県	水稲	斑点米カメムシ類
7月30日	徳島県	果樹（なし、かき、もも等）	チャバネアオカメムシ
7月31日	静岡県	水稲	斑点米カメムシ類
7月31日	石川県	水稲	斑点米カメムシ類
7月31日	富山県	果樹	果樹カメムシ類
8月1日	岩手県	りんご	ナミハダニ
8月1日	新潟県	果樹（かき、なし、もも等）	果樹カメムシ類
8月2日	鳥取県	水稲	斑点米カメムシ類
8月2日	広島県	水稲	セジロウンカ
8月3日	大分県	水稲	いもち病（穂いもち）
8月6日	熊本県	水稲	トビイロウンカ

■ 特殊報

新たな病害虫を発見した場合及び重要な病害虫の発生消長に特異な現象が認められた場合に発表します。

発表月日	都道府県名	対象作物名	対象病害虫名
7月20日	神奈川県	茶	チャトゲコナジラミ
7月23日	栃木県	りんどう	TSWV*による病害
7月24日	兵庫県	うめ	輪紋病
7月26日	山口県	茶	チャトゲコナジラミ
7月27日	徳島県	びわ	ビワキジラミ（仮称）

8月2日	岡山県	きく	茎えそ病
8月6日	大阪府	さつまいも	タテスジヒメジンガサハムシ

*TSWV : Tomato spotted wilt virus (トマト黄化えそウイルス)

用語解説

地域

- ・ 北海道：北海道
- ・ 東北：青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北東北：青森県、岩手県、秋田県
南東北：宮城県、山形県、福島県
- ・ 関東：茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
北関東：茨城県、栃木県、群馬県
南関東：埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
- ・ 甲信：山梨県、長野県
- ・ 北陸：新潟県、富山県、石川県、福井県
- ・ 東海：岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
- ・ 近畿：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
- ・ 中国：鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
- ・ 四国：徳島県、香川県、愛媛県、高知県
- ・ 九州：福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県
北九州：福岡県、佐賀県、長崎県、大分県
南九州：熊本県、宮崎県、鹿児島県
- ・ 沖縄：沖縄県

発生量（程度）

- ・ 多い（高い）：やや多いの外側 10%の度数の入る幅
- ・ やや多い（やや高い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 平年並：平年値を中心として 40%の度数の入る幅
- ・ やや少ない（やや低い）：平年並の外側 20%の度数の入る幅
- ・ 少ない（低い）：やや少ないの外側 10%の度数の入る幅
- ・ （平年値は過去 10 年間の平均）

平成 24 年度発表予定日

- ・ 第 7 号：9 月 6 日（木曜日）
- ・ 第 8 号：10 月 11 日（木曜日）
- ・ 第 9 号：11 月 8 日（木曜日）
- ・ 第 10 号：2 月 14 日（木曜日）

（参考）これまでの発表

- ・ 第 1 号：4 月 19 日（木曜日）
- ・ 第 2 号：5 月 17 日（木曜日）

- ・ 第 3 号： 6 月 14 日（木曜日）
- ・ 第 4 号： 7 月 5 日（木曜日）
- ・ 第 5 号： 7 月 19 日（木曜日）

お問い合わせ先

消費・安全局植物防疫課

担当者：防除班 黒谷、後藤

代表：03-3502-8111（内線 4562）

ダイヤルイン：03-3502-5976

FAX：03-3502-3386

当資料のホームページ掲載 URL

<http://www.maff.go.jp/j/press/>